



北斗

□校訓 融和

□教育目標

自ら学び 心豊かに たくましく生き抜く人

- ・すすんで学び 行動する人
- ・認め支え合い 共に歩む人
- ・苦難に立向い 生き抜く人

千歳市立北斗中学校
 千歳市北斗5丁目1-1
 電話：0123-22-4151
 FAX：0123-22-4152
 ホームページはこちら→



今年度の全国学力・学習状況調査におきまして、千歳市内の状況は、すでに千歳市公式ホームページで紹介されております。今号では特別号として、北斗中学校生の状況を保護者や地域の皆様にお知らせいたします。

千歳市公式 HP

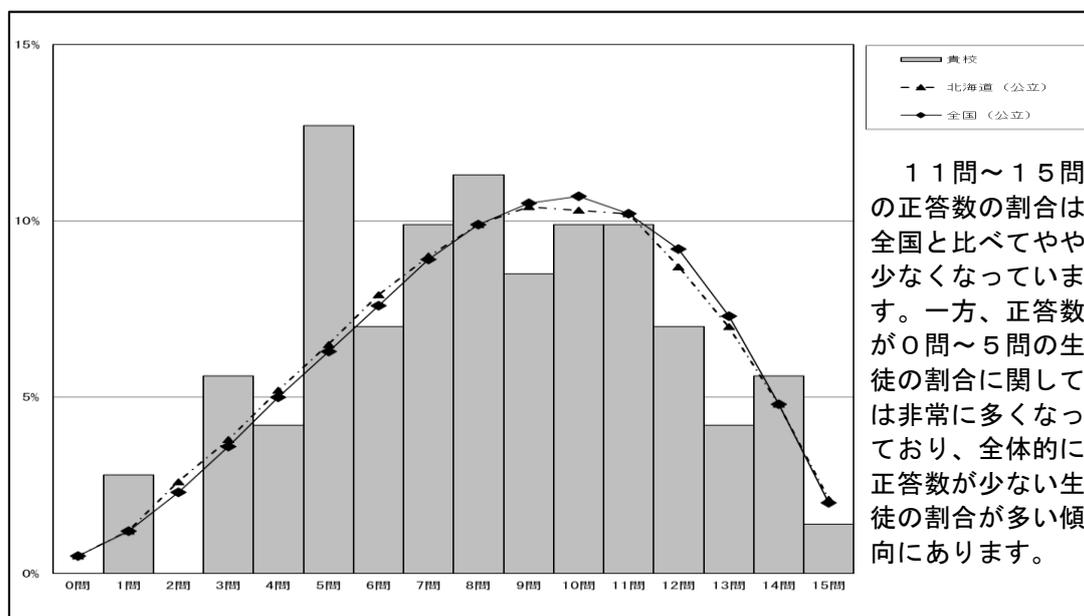


【国語】全国の平均正答率と比較すると、「やや低い」という結果でした。

【国語】領域別正答率（全国を100%とした場合の指数）



【正答数分布グラフ】※実施人数 71 人



【正答率の高い問題】

大問 3-1 『物語を書くために集めた材料を取捨選択した意図を説明したものとして適切なものを選択する問題』

3 佐藤さんは、国語の時間に、「体験をもとに、身近なものを登場人物にした物語を書く」という学習に取り組んでいます。次は、佐藤さんが構想をまとめた「ノートの一部」と「物語の下書き」です。これらを読んで、あとの問いに答えなさい。（「ノートの一部」及び「物語の下書き」の1から4は、場面の番号を表します。）

ノートの一部

（登場人物の設定）

- ・「僕」……紙の辞書。語り手。
- ・「君」……紙の辞書の持ち主（中学生）。

（もとにする体験）

- ・小学生のとき、紙の辞書を親に買ってもらった。
- ・使いはじめた紙の辞書の引き方が難しくて困った。
- ・最近ではオンライン辞書ばかり使っている。
- ・紙の辞書を久しぶりに使った。

（物語を通して伝えたいこと）

紙の辞書を久しぶりに使って気付いたよさ。

（各場面で伝えたい「僕」の心情）

- 1 出番のない寂しさ。
- 2 忘れられるかもしれない不安。
- 3 久しぶりの出番で感じた喜び。
- 4 次の出番への期待。

【物語の下書き】

1 あの日も僕は、君の部屋の本棚の隅でじっと待っていた。ほこりだらけになりながら。中学生になつてから、君はオンライン辞書を使うようになった。以前はよく、印を付けたら、書き込みをしたりしてくれていた。君との距離は、ずいぶん遠くなってしまった。

2 インターネットだと、複数の辞書にアクセスできるから、タブレット端末だけを持ち運べばよい。単語さえ入力すれば、すぐに知りたいことを教えてくれるし、かさばらないし。君にとっては、とても便利なのだろう。僕なんて、このまま忘れられてしまふのかな。

3 そう考えていたとき、君は僕を手を取った。学校にタブレットを置いてきたのだろうか。久しぶりだったから、僕はびっくりし、君はほこりで大きなくしゃみをした。ほこりだらけの僕に顔をしかめたけれど、何度かページを繰っては、いろいろな言葉の意味を調べていた。当然、いつもよりは時間がかかっている。調べなければならぬ言葉だけでなく、近くにある言葉にも線を引き、意味を確認する君。意味調べが終わっても、君は僕をいつもの場所に戻さなかった。しばらくページを繰り、小学生のときに印を付けた言葉や書き込んだ言葉を読み返していた。君はみちたたりた表情をしていた。僕は自分が認められたような気がした。

4 あの日から数日が過ぎた。

【出題の趣旨】

目的や意図に応じて、集めた材料を整理し、伝えたいことを明確にすることができるかどうかをみる。

【正答】

3

【正答率】

87.3%

【無回答率】

2.8%

【正答した生徒の状況】

目的や意図に応じて、集めた材料を整理し、伝えたいことを明確にできている生徒が多い。佐藤さんが、【ノートの一部】の〈もとにする体験〉に書いた情報の中から、「最近ではオンライン辞書ばかり使っている。」と「紙の辞書を久しぶりに使った。」を取り上げることで、〈物語を通して伝えたいこと〉である「紙の辞書を久しぶりに使って気付いたよさ。」をより明確に伝えようとしていることを捉えることができている。

【正答できなかった生徒の状況】

目的や意図に応じて、集めた材料を整理し、伝えたいことを明確にすることに課題がある。

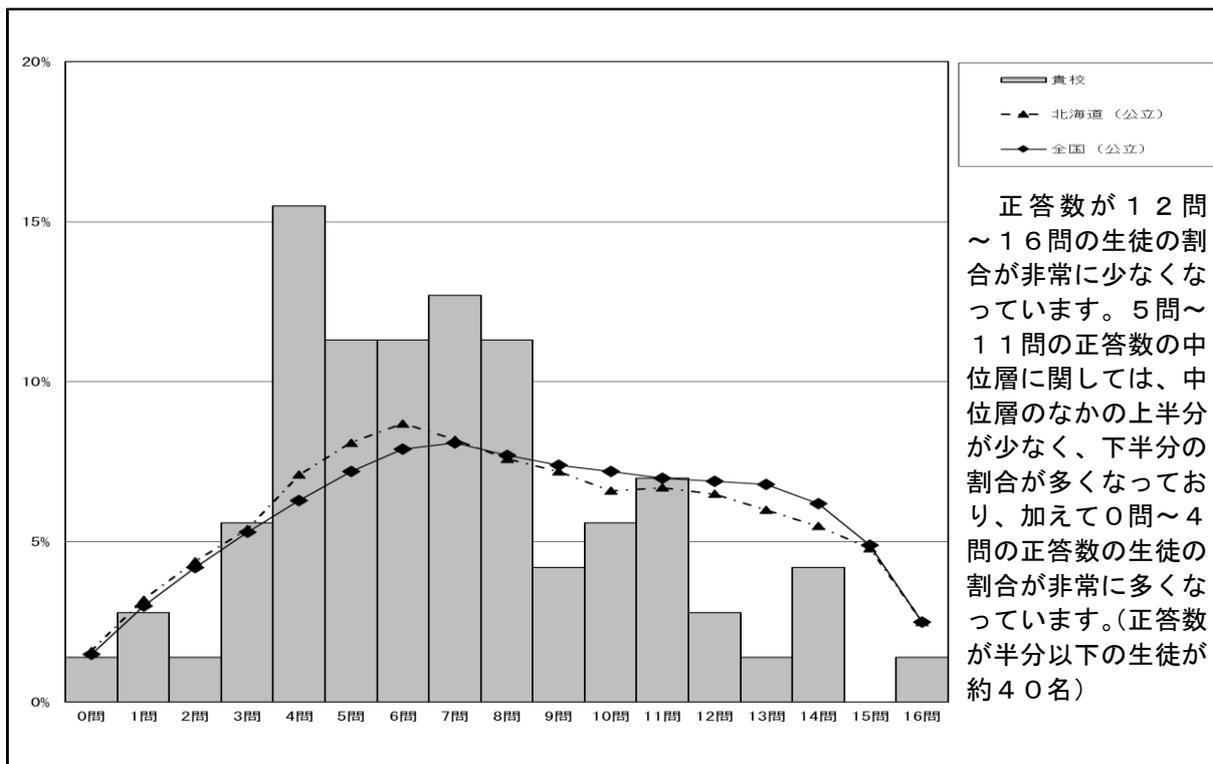
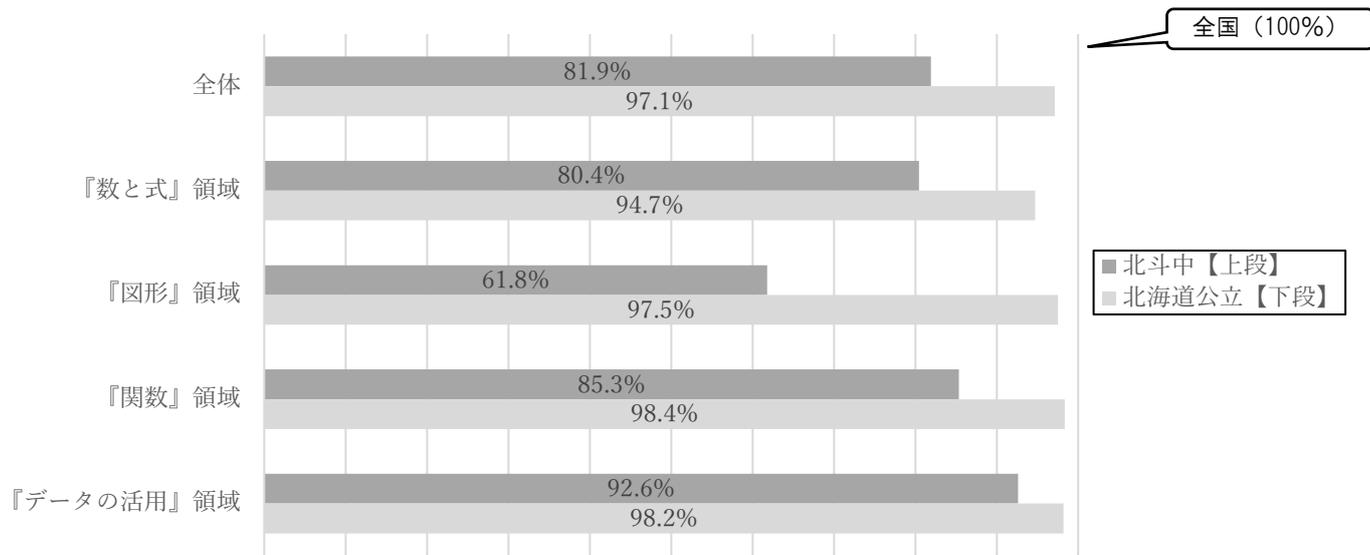
問い

1 佐藤さんは、「ノートの一部」の「もとにする体験」に書いた情報の中から、「最近ではオンライン辞書ばかり使っている。」と「紙の辞書を久しぶりに使った。」を取り上げることにしました。その意図として最も適切なものを、次の1から4までの中から1つ選びなさい。

- 1 物語の読み手に、紙の辞書を初めて手にしたときの気持ちがより明確に伝わるようにするため。
- 2 物語の読み手に、紙の辞書よりもオンライン辞書の方がよいことがより明確に伝わるようにするため。
- 3 物語の読み手に、紙の辞書を久しぶりに使ったよさがより明確に伝わるようにするため。
- 4 物語の読み手に、紙の辞書の引き方が難しく困ったことがより明確に伝わるようにするため。

【数学】全国の平均正答率と比較すると、「相当低い」という結果でした。

【数学】領域別正答率（全国を100%としたときの指数）

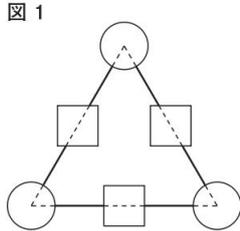


【正答率が高い問題】

大問⑥- (1)

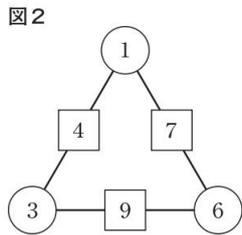
『正三角形の各頂点に○を、各辺に□をかいた図において、○に3、-5を入れるとき、その和である□に入る整数を求める問題』

⑥ 次の図1は、正三角形の3つの頂点に○を、3つの辺に□をかいたものです。○には整数を1つずつ入れ、□にはその□がかかっている辺の両端の○に入れた整数の和が入ります。



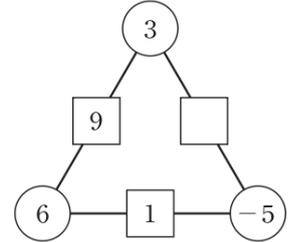
計算の例

3つの○に1、3、6を入れると
 3つの□にはそれぞれ
 $1+3$ 、 $3+6$ 、 $6+1$
 の計算結果が入る。
 だから、3つの□には4、9、7
 が入る。



問い

(1) 下の図の□に入る整数を求めなさい。



【出題の趣旨】

問題場面における考察の対象を明確に捉え、正の数と負の数の加法の計算ができるかどうかをみる。

【正答】

-2

【正答率】

91.5%

【無回答率】

2.8%

【正答した生徒の状況】

考察の対象を明確に捉え、正の数と負の数の加法の計算ができている。

【正答できなかった生徒の状況】以下の状況

- ・ -5と3の和を、 $5-3$ と計算したと考えられる。
- ・ -5と3の和を、 $-(5+3)$ と計算したと考えられる。
- ・ -5と3の和を、 $5+3$ と計算したと考えられる。

【正答率が低い問題】

大問9-（1）および（2）

- (1) 『点Cを線分AB上にとり、線分ABについて同じ側に正三角形PACとQCBをつくるとき、 $AQ=PB$ であることを、三角形の合同を基にして証明する問題』
- (2) 『点Cを線分AB上にとり、線分ABについて同じ側に正三角形PACとQCBをつくるとき、 $\angle AQC$ と $\angle BPC$ の大きさについていえることの説明として正しいものを選ぶ問題』

9 線分ABがあります。線分AB上に点Cをとって、AC、CBをそれぞれ1辺とする正三角形PAC、QCBを、線分ABについて同じ側につくります。そして、点Aと点Q、点Bと点Pを結びます。ただし、点Cは点A、Bと重ならないものとします。

桃子さんは次の図1のように点Cをとって、健太さんは次の図2のように線分ABの中点に点Cをとりました。

図1

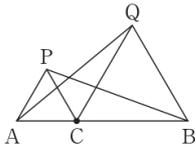
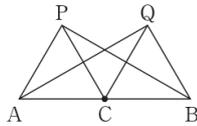
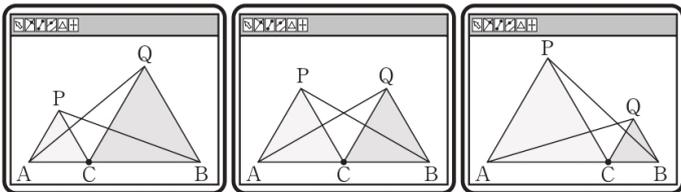


図2



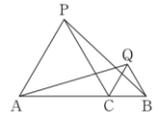
二人は図1と図2を観察し、線分や角についていえることがないか気になりました。そこで、コンピュータを使って点Cを動かしながら調べました。



問い（1）

(1) 桃子さんは、コンピュータを使って調べたことから、点Cが線分AB上のどこにあっても、 $AQ=PB$ になると予想しました。

桃子さんの予想した $AQ=PB$ がいつでも成り立つことは、 $\triangle QAC \equiv \triangle BPC$ を示すことで証明できます。 $AQ=PB$ になることの証明を完成させなさい。



証明

$\triangle QAC$ と $\triangle BPC$ において、

合同な図形の対応する辺は等しいから、
 $AQ=PB$

【出題の趣旨】

筋道を立てて考え、証明することができるかどうかをみる。

【正答】（例）

正三角形の辺はすべて等しいから、
 $AC=PC$ ……① $CQ=CB$ ……②
 正三角形の1つの内角は 60° より、
 $\angle ACQ=60^\circ + \angle PCQ$
 $\angle PCB=60^\circ + \angle PCQ$ よって、 $\angle ACQ=\angle PCB$ ……③
 ①、②、③より、2組の辺とその間の角がそれぞれ等しいから、 $\triangle QAC \equiv \triangle BPC$

【正答率】

15.5%

【無回答率】

39.4%

【正答した生徒の状況】

「 $AC=PC$ 」、「 $CQ=CB$ 」、「 $\angle ACQ=\angle PCB$ 」、「 $\triangle QAC \equiv \triangle BPC$ 」を記述し、それぞれの根拠について記述している。もしくは「 $\triangle QAC \equiv \triangle BPC$ 」である理由を正しく記述している。

【正答できなかった生徒の状況】以下の状況

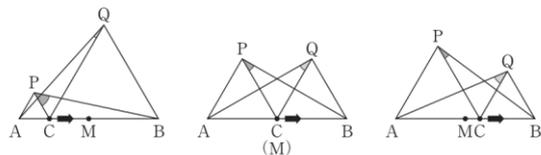
図形についての考察場面において、ある事柄が成り立つ理由を数学的な表現を用いて説明するというところに課題がある。また説明する際、それぞれの成り立つ事柄についてそれぞれの根拠を記述する部分に課題がある。

問い(2)

(2) 健太さんは、線分ABの中点に点Cをとった場合に $\angle AQC$ と $\angle BPC$ が等しく見えたことから、他の場合にはどうなるか気になりました。

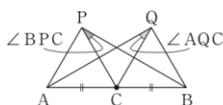
そこで、次の図3のように、線分ABの中点をMとして、点Aから点Bの方向へ点Cを動かした場合に $\angle AQC$ と $\angle BPC$ の大きさがどうなるかを調べ、下のようにまとめました。

図3



調べたこと

- 点Cが点Aから点Bに近づくにつれて、 $\angle AQC$ は大きくなり、 $\angle BPC$ は小さくなる。
- 点Cが線分ABの中点のとき、 $\angle AQC$ と $\angle BPC$ は等しく、どちらも 30° である。



健太さんは、前ページの調べたことから、 $\angle AQC$ と $\angle BPC$ の和について何かいえることがないか考えています。

このとき、 $\angle AQC$ と $\angle BPC$ の和について、次のことがいえます。

- 点Cが点Aと中点Mの間にあるとき、 $\angle AQC$ と $\angle BPC$ の和は 。
- 点Cが中点Mと点Bの間にあるとき、 $\angle AQC$ と $\angle BPC$ の和は 。

上の 、 のそれぞれに当てはまるものを、下のアからエまでの中から1つずつ選びなさい。

- ア 60° より大きい
- イ 60° より小さい
- ウ 60° になる
- エ 60° より大きいことも小さいこともある

【出題の趣旨】

事象を角の大きさに着目して観察し、問題解決の過程や結果を振り返り、新たな性質を見いだすことができるかどうかをみる。

【正答】

①ウ ②ウ

【正答率】

11.3%

【無回答率】

5.6%

【正答した生徒の状況】

$\angle AQC$ と $\angle BPC$ の和についていえることとして、点Cを線分AB上のどこにとっても $\angle AQC$ と $\angle BPC$ の和は 60° になることを捉えることができていると考えられる。

【正答できなかった生徒の状況】

予想した事柄について成り立つ理由を筋道を立てて考えたり、問題解決の過程や結果を振り返って本質的な条件等を見出したりする力に課題がある。

【今後の取り組み：数学科】

- 授業では個人で「考える」時間を確保し、その考えを「書く」こと、「説明する」ことができるように粘り強く取り組み、周りとの交流する活動を取り入れていきます。
- 3年間の学習内容の関連性を意識させて復習や振り返りを行ったり、学習内容の反復練習としてワークから宿題を出すなど、繰り返しの演習をすることで定着を図ります。
- 答えだけでなく計算過程や解き方を丁寧に書くことで、どこで間違えたのか、どのように解いていくのかを自ら気づかせるように指導していきます。

【北斗中学校の取り組み：全教科】

<取り組み①>

『主体的・対話的な学びを実現するための授業づくり』

◎個別思考と対話の場面を工夫・設定した授業実践を行う。

グループやペア形式での対話の中から自分の考えを的確に表現する力を養うことで、他者の考えから自分の考えを深めていくような授業づくりを行う取り組みを進めています。



【抜粋】生徒学習アンケート結果より（6月） ※4点満点を平均化した点数
（4 そう思う　　3 ややそう思う　　2 あまり思わない　　3 思わない）

質問項目	1年	2年	3年
「話し合う」活動を通して自分の考えを他の人に伝え、他の人と共通する所や違うところを見つけ出すことができた。	3.56	3.33	3.62
「話し合う」活動をすることでお互いの考えを交流でき、自分の考えを深めることができた。	3.56	3.40	3.74
ICT機器を使って他の人との考えを比べたり、話し合うことで、自分の考えを深めることができた。	3.30	3.44	3.71
「振り返り」を記入することで、学習したことや理解ができたこと、できなかったこと、疑問点などを確認することができた。	3.38	3.32	3.46

※「話し合う」活動やICT機器を使った取り組みに関して、肯定的な気持ちをもっている生徒が多くいます。今後も主体的・対話的な学びを実現するための授業づくりを行います。

◎教師による授業アンケートの実施と分析を行う。

生徒だけでなく、教師も自らの取り組みを見直すべく、各授業の取り組みについてのアンケートを行い、結果を交流、分析して授業改善に役立てています。

<取り組み②>

『学習への意欲を高める環境づくり』

①各教科で授業の内容の『振り返り』を行う取り組みを行うことにより、生徒の記述力を養う。

各教科で1時間ごとの授業の『振り返り』の時間を設定し、生徒自身がその日学んだことや理解できたことなどをシートに記入し、学習内容の記録化を適切に行うことで、次の時間への学習意欲の喚起や記述力を養う取り組みを進めています。

②ともに学び、ともに高めあう姿勢を大切にするため、「学習の心がまえ」の5ヶ条を日常的に意識しています。

③家庭学習のポイントや、各教科からの学習のアドバイスが載った『家庭学習の手引き』を全校生徒に配布し、学校で習ったことが自宅での学習につながる意識の向上に向けた取り組みを進めています。

学習の心がまえ 5ヶ条

- ① 2分前には授業準備を完了しよう
- ② はっきり聞こえる声で発表しよう
- ③ 学習に関係ある話をしよう
- ④ 自分の考えと他の人の考えを大事にしよう
- ⑤ 学習や課題に粘り強く取り組もう